



新品種のご紹介

極濃緑色で
肥大性・伸長性に優れる
晩抽性F₁品種！

はくすい
白 翠 (KAA-001)
カネコ交配
ネギ

カネコ種苗(株)
くにさだ育種農場
牧村 徹也

性に優れた品種を目標として開発を進め、このたび新品種として「白翠」を発表しました。

品種特性

① 肥大性・伸長性に優れる

「白翠」は、晩抽性品種の中でも肥大性に優れる早生タイプです。初夏どりを目指した秋まきのトンネル栽培では、早生性を生かして5月からの収穫が可能です。収穫物は2Lサイズを中心にそろいがよく、伸長性にも優れるため、土寄せの期間が短い秋まき作型においても軟白部の確保が容易です。

② 葉色が濃く葉先枯れが少ない

葉色は極濃緑のため軟白部とのコントラストが強く、白さがより映えます。また、根量は中程度なので土寄せ時の断根のダメージを受けにくく、葉先枯れも少ないため圃場での見栄えが非常に良いです。

③ 在圃性に優れる

「白翠」は早生品種の中でも襟しまりに優れる品種です。初夏どりの作型では、襟割れによる在圃性の低下が問題となっていますが、高温期の収穫においても襟が割れにくく、収量性や秀品率が優れます。

はじめに

ネギは全国で栽培されている作物であり、年間を通して青果物から業務・加工用まで幅広い用途で高い需要があります。国内では産地リレー

により周年栽培されていますが、ネギが抽苔する春・初夏は端境期となっており、特にネギの需要は高まっているように感じます。一方で、気温の上昇・抽苔・乾燥等の環境要因や、



春どり作型の場合、肥大性の優れる「白翠」は、定植後から生育を進めると台風等の被害を受けやすくなります。そのため、6月上旬以降の播種では、前半の生育を抑え、秋以降の追肥で生育を促す管理が適します。

② 肥料は控えめに

「白翠」は草勢が強く、肥料に敏感な品種なので、多肥栽培よりも減肥栽培に向きます。また、襟しまりの強い品種ではありますが、極端な多肥条件では襟割れの増加や在圃性の低下を招きやすいので、適期収穫を心がけましょう。

④ 重量がのる
春・初夏にかけては、近年高温・干ばつ傾向であり、特に7月収穫の作型では、1本あたりの重量が出にくく軽いネギになりやすいですが、「白翠」は葉肉が厚く水分量も多いため、1本重が重く歩留まりが良い品種です。

栽培ポイント

① 極端な早まきは避ける

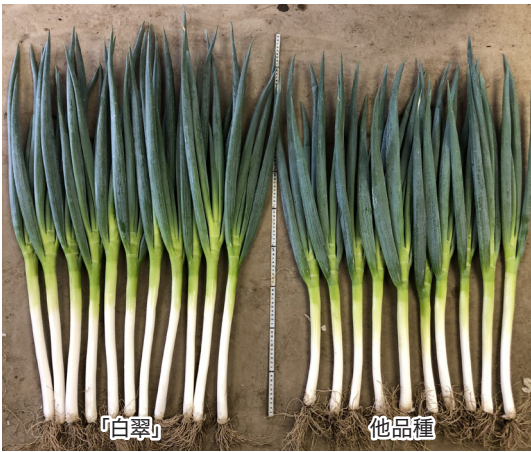
初夏どり作型の場合、早まきすると晩抽性品種でも抽苔してしまう恐れがあります。トンネル栽培では10月上旬以降、無被覆栽培では11月中旬以降が播種適期です。

③ 病害虫防除は予防を中心に
ネギは栽培期間が長いいため、病害虫の被害を軽減するためにも予防防

除が重要になります。

初夏どり作型では、収穫時期である5〜6月に発生すると病の被害が増えています。多発すると防除が困難になるので、発生前からの予防防除を徹底しましょう。病害の発生が少しでも見られた場合は早めの防除をおすすめします。

春どり作型では、夏越しが重要です。特に軟腐病や白絹病の発生は多雨や多肥で助長されます。圃場の排水対策や夏場の肥培管理で多発させないようにしましょう。また、高温期の土寄せはネギのストレスとなり、生育不良や病害虫の発生を助長するので注意しましょう。



おすすめ作型

「白翠」のおすすめ作型は、10月播種の5〜6月収穫、11月播種の7月収穫です。

初夏どり作型では、トンネル栽培で肥大性を生かした5月どり、無被覆栽培で在圃性や収量性を生かした7月どりが特におすすめです。

春どり作型では、肥大性を生かした3月どり、襟しまりの強さと晩抽性を生かした4月どりが適します。

作型表		●: 播種	×: 定植	■: 収穫	┐: トンネル被覆	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
中間地・暖地	初夏どり	●	●	×	┐								■				
	春どり										■		●	●	×	×	